



たかまつ

令和7年4月30日
学校だより
令和7年度 5月号
豊島区立高松小学校
校長 原 雅人

大型連休を学びの機会に

校長 原 雅人

新緑が目鮮やかな5月を迎えました。

さて、大型連休（いわゆる「ゴールデンウィーク」）が始まっています。日頃の喧騒を離れ、ご家族やご親戚とゆっくり過ごされる方、趣味や旅行など計画されている方もいらっしゃるでしょう。

この貴重な連休は、**普段の学校生活ではなかなか得られない、様々な学びの機会**に満ちています。例えば、旅行先で目にする風景、出会う人々、触れる文化は、教科書だけでは学ぶことのできない生きた教材です。歴史的な場所を訪れるならば、その背景にある物語や、その壮大な景色や、そこに息づく様々な生命の力強さに触れてみてください。博物館や美術館を訪れることも、新たな知識や感性を磨く良い機会となるでしょう。

私の地元にある名古屋市美術館には、アメデオ・モディリアーニという画家の描いた「おさげ髪の少女」という肖像画が展示されています。その絵の前に立つと、少女の心の内や実際どんな女の子だったのだろうと想像せずにはいられませんでした。一見すると素朴に見えるのですが、見つめているうちに、その奥に秘められた少女の個性や感情が、静かに、しかし確かに伝わってくるようでした。

この絵を見たとき、芸術作品は単なる美しい装飾ではなく、私たち自身の内面と深く向き合うきっかけを与えてくれるものだと思えました。

もし、名古屋方面へお出かけになる機会がありましたら、ぜひ名古屋市美術館にも足を運んでみてください。

美術館での体験は、感性を磨くだけでなく、歴史や文化、そして何よりも人間そのものへの理解を深める貴重な機会となります。作品を通して、作者が生きた時代や、込めた想いに触れることで、私たちはより豊かな視点をもつことができるでしょう。

もちろん、学びの扉は美術館だけにあるわけではありません。ゴールデンウィークは、普段できない様々な体験を通して、世界を広げる絶好のチャンスです。

連休中に心に残ったこと、新しく発見したこと、感じたことなど、友達同士で共有できるといいですね。**皆さんの多様な経験は、きっと皆さんの学びをより豊かにしてくれる**でしょう。

コラム：校内研究①「ユニバーサルデザイン」

今号より、コラム：校内研究にて、本校の校内研究の取組を連載してまいります。学校の教育力向上のために向き合う教員の姿勢や、学校としての取組についてお伝えしていきます。初回は、**今年度の研究テーマ「ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり」**について紹介します。

「ユニバーサルデザイン」は、「すべての人が利用しやすいデザイン」を指す総称です。**「授業作りにおけるユニバーサルデザイン」とは、「誰にとっても学びやすい授業デザイン」のことと捉えます。**例えば、「全員が活動できる、学び合える場を工夫した授業」や「一人一人の進度や得意な学び方に合わせた課題の提示」などです。

「一人一人の特性に合わせた教育」について、学校としても、それを十分に踏まえ、意識し取り組んで来ているところです。**得意なことはさらに伸ばし、苦手なことは少しでも「できた」を味わえるように**、「ユニバーサルデザインの視点に立った授業づくり」を研究してまいります。
(研究主任)